

市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言） に基づいた本市の取組の状況

1 提言の概要

別紙 1 市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）（広報資料） 参照

2 提言に基づく新たな具体的取組

（1）環境にやさしい「京都エコ修学旅行」の推進

観光関連のごみ減量は本市だけでは成し遂げられず、全国に対して本市が促進している2Rを発信していく必要があるため、観光客の中でも①環境教育の効果が高く、②学校を通じた団体での取組を見込め、③今後京都を再訪する可能性が高い、といった点に着目し、修学旅行生（平成27年実績109万人）をターゲットとし、環境にやさしいエコな取組を行うことを宣言していただいた学校の生徒に対し、本市からエコバッグを提供し、環境にやさしい観光、修学旅行を実践していただく。

具体的な事業手法としては、本市から学校へ事業の案内をするとともに、旅行会社と連携し、旅行会社が学校へ修学旅行の内容を提案する際に、本市のキャンペーンを紹介・推奨していただき、本市の取組に協力していただける学校を募集する。

【環境にやさしいエコな取組の宣言内容】

- ① 歯ブラシを持参し、宿泊施設の使い捨て歯ブラシを使わないこと
- ② エコバッグを携帯し、買い物時にレジ袋や紙袋はもらわず、できるだけ簡易に包装された商品を購入すること
- ③ 出された食事をできるだけ食べきり、食べ残しを出さないこと

【エコバッグ作成数】

20,000枚（先着順）

【直近の実績】※ 平成28年10月13日時点

申込み校数：215校、エコバッグ配布枚数：17,746枚

別紙 2 新聞記事（エコ修学旅行）

（２）高齢者入所施設における食品ロス削減モデル事業

老人ホームにおける、２Ｒと分別・リサイクルによる食品ロスの削減強化を図るための具体的手法を検討するためのモデル事業を実施する。

具体的には、食べ残しを発生抑制（２Ｒ）するための調査検討を行うとともに、特別養護老人ホーム(7箇所)から発生する食べ残し等の生ごみの分別回収と、民間の資源化施設でのリサイクルをモデル的に実施し、食品ロスの削減に要するコストの試算や効率的な手法の検討、課題の抽出等を行い、取組の拡充につなげていく。（リサイクルは、平成２８年１１月から約５箇月間実施予定）

（３）「京都市ごみ半減・ここみアプリ（仮称）」の制作・運用

スマートフォンの利用率が年々高まっていることを踏まえ、ごみの減量行動を促すスマートフォンアプリを制作し、市民の自主的な２Ｒと分別・リサイクルの促進を図る。（平成２８年１２月配信予定）

【コンテンツ】

ア ごみの分け方・出し方

ごみ分別事典、回収拠点検索・登録、収集日検索・お知らせアラーム など

イ ごみ減量家計簿

世帯人数、ごみ袋の使用量（大きさ・枚数・詰め込み具合）などをごみ出し日ごとに入力することにより、本市のごみ減量の目標に対する利用者の実績やごみ袋に係るコストを評価

ウ ダイエットチャレンジ・資源物クイズ

ごみ減量につながるチャレンジ課題及びごみに関する知識向上のためのクイズを出題

エ その他

新着情報のプッシュ通知 など

<アプリのイメージ>



【アプリの特徴】



取組の積み重ねを具体的に「見える化」する仕組みを設けることにより、アプリの利用者が実感を持ってごみ減量に取り組めるものとします。

家族や地域のグループで家計簿データやダイエットチャレンジを共有することにより、共同してごみ減量に取り組むことができます（グループ共有機能）。



(4) レジ袋削減等2Rに関する啓発媒体作成等

市民、事業者、観光客に重点的に取り組んでいただく2R行動を抽出し、実践していただくためのガイドや、レジ袋有料化店舗等でごみ減量をPRする啓発媒体の作成等を行う。(5)の調査結果を踏まえ、平成29年3月に作成予定)

【2R行動ガイドの例】

ア 暮らし編

「食品ロス」「レジ袋」など、買いもの・食事のポイントとなる重点的取組をまとめる。

イ 宴会編

印象に残りやすい特徴的な場面であることを捉え、宴会におけるポイントとなる重点的取組をまとめる。

ウ 観光編

宿泊、飲食及び土産物購入など、観光における場面別の2Rのポイントとなる重点的取組をまとめる。

(5) ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」等2Rの取組によるごみ減量効果検証調査

条例やプランに掲げる施策の実施によるごみ減量効果の検証を行い、より効果の高い取組を明らかにすることにより、ごみ減量効果の見える化に繋げていくための調査を行う。(平成28年9月着手)

※「議事2 ごみ減量メニューの実践による効果検証方法に関する調査」において審議

(6) 小型家電リサイクル資源の活用(平成29年度実施予定)

京都市が回収した使用済小型家電のリサイクルを通じて、「都市鉱山」100%由来の金を使った京都マラソンの優勝メダルを作成する全国初の取組を、京都市産業技術研究所の技術を活用し、2018年大会に向けて実現していく。

別紙3 新聞記事(小型家電から金メダル)